

本資料は 2023 年 5 月 30 日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター
一般財団法人 電力中央研究所
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス
原子力リスク研究センター所長

2023 年 6 月 14 日

ジョン W. ステットカー氏
技術諮問委員会委員長

件名：2023 年 5 月 30 日付報告書「2024 年度 NRRC 研究計画案」

ステットカー委員長

我々の研究計画をレビューしていただく中でのやりとり、および委員会から示された知見に感謝申し上げます。NRRC は TAC の提言について、以下の通り回答する。

1. 2024 年度研究計画

報告書において、委員会は「2023 年度における研究計画の全体的な範囲及び、主要研究分野における個々のプロジェクトの技術目標は、NRRC の短期的、中期のおよび長期的目標と合致している」と記している。こうした評価をいただいたことを大変ありがたく思う。

2. リスク統合のための研究活動

今回の会議にて TAC より提示されたこのテーマに関する意見や情報に大変感謝する。NRRC はこの挑戦的なテーマに関する調査と検討を継続し、プロジェクトの進捗状況を今後の TAC の会議において共有する。

3. 「議論」セクションにおける各研究活動に対する提言について

特定の研究活動に対する 3 つの提言については、2024 年度以降の研究計画において考慮する。詳細は以下の通りである。

(1) リスク情報を活用した意思決定ガイダンスの開発

RIDM プログラムの二つのカテゴリーにかかる提案に感謝する。リスク情報を活用した活動には、規制に関するもの（カテゴリー1）と、規制に関係なく電力会社が自主的に実施できるもの（カテゴリー2）の、二つのカテゴリーがあると理解する。日本でカテゴリー1を実現するためには、規制当局に対してカテゴリー2の実施状況を示すことが重要であると考えている。電力会社がカテゴリー2を恒常的に達成するために、NRRC のチームはRIDM プログラムを支援するガイダンスを開発していく。

(2) 使用済燃料リスク評価

使用済燃料リスクの解析を、全出力時、低出力時、停止時モードにおける炉心の燃料損傷の PRA モデルと統合することが、本研究のスコープにおいて重要であると理解する。2024 年度に開始予定の SFP 用 PRA モデルの開発では、全てのプラント運転モードにおける使用済燃料損傷によるリスクを統合的に評価する方法論を確立することを目標として本研究を実施する。

(3) 強風リスク評価

強風 PRA 技術の開発のための研究計画については、竜巻の次に台風（強風）を検討するという現行計画の改定について電力会社と議論すると共に、台風 PRA に関する既存の研究の調査を始める。

敬具

ジョージ・アポストラキス（本人署名）